



心がコントロール出来れば、技もコントロール出来る！

道心探求

北川八郎著の「繁栄の法則 その二」の中に「無敵には戦って勝ち抜く無敵と、戦いとは無縁で『好意の恩返し』の中で『味方だらけの世界』で経営する『戦わないで繁栄する』無敵があります」とあった。経営の本であるが、読んで直ぐに開祖の「絶対不敗」を思い出した。

開祖の言葉を編集した「合気神髄(植芝吉祥丸監修)」を紐解いてみると、

「愛は争わない。愛には敵はない。何ものかを敵とし、何ものかと争う心はすでに宇宙の心ではないのである。(略)真の武道には敵はない、真の武道とは愛の働きである。(略)合気の道こそが愛の現れなのである。(略)真に宇宙と一体になることができれば、いかなる場合にも絶対不敗である。絶対不敗とは絶対に何ものとも争わぬこと。勝つとは己れの心の中の『争う心』に打ち勝つことである」とある。敵を作らないという点では「繁栄の法則」と同じなのかもしれないが、とても明治生まれの武道家が残した言葉とは思えない。しかし、これこそ他の武道と合気道が違ふところだ。開祖が言う「宇宙と一体になる」とか、よく聞く「宇宙の法則に従う」とは技や動きのテクニックを言っているのではなく、「心」の境地を指していることがわかる。もしくは更に深層の魂の問題かもしれない。開祖が「合気道は禊技じゃよ」と言われたことにも通じるのではないだろうか。

合気道が強さやテクニックを求め試合のある武道だったら、どうなっていたらどうか。おそらく五輪種目に採用されない限り古流の一武道としてしか認識されず、今のように普及していなかったのではないだろうか。「絶対不敗」の理念に共感を得られたからこそ世界中に試合のない合気道が普及していったと思う。そう思うと、合気道は繁栄の法則に沿った武道なのかもしれない。最近では、武道経験もなく、ましてや運動経験のない人たちも多く入門しているという。やっと時代が合気道に追いついてきたように感じてならない。

【杖を持って自主稽古しよう！ ～四方に突いて、体を切り返し、杖を振り下ろす～】

左半身で返し突き、杖を引いて逆手(親指が下になる)のまま振りかぶり右半身で振り下ろす。



8 振り被る

7 返し突き

6 後ろに向く

5 右半身で振り下ろす

4 杖を引いて振り被る

3 返し突き

2 右手小指から握る

1 構える

返し突きの握り方  
両手親指は常に内  
側に向き合う

15 振り下ろす

14 振り被る

13 後ろへ向いて突く

12 振り下ろす

11 振り被る

10 左足を横に出して突く

9 振り下ろす

～ワンポイントアドバイス～



- ・八相に構えて右足を出しながら杖を振り下ろす。
- ・右手は剣構えとは逆になり、右手親指が下に向く(順手の振り下ろしもある)。
- ・右手の労宮を上に向け、入り身投げの投げの要領で杖を振り下ろす。



植芝盛平記念館



武道館正面に開祖の銅像が立つ

合気の旅(植芝盛平記念館)  
今年十月、和歌山県田辺市に植芝盛平記念館がオープンしたので、早速行ってみた。田辺市は開祖のご生誕の地である。以前からあった武道館の老朽化にともない、移転新築し植芝盛平記念館を併設した。南海トラフ地震での津波対策として津波災害時の緊急避難場所としての活用も想定している。開祖の生涯や合気道の魅力を広く伝えるための施設である。開祖が稽古で着用していた道着を記念館入口に展示し、来場者を迎えてくれる。その他に書や賞状などゆかりの品を展示している。また、合気道体験映像がある。合気道の基本となる「構え・歩法」「座法」「体さばき」の3つの体験コースがあり、「お手本を見る」↓「実践」↓「確認」のステップで体験できる。展示品は定期的に入れ替える予定ということだ。  
時間：午前十時から午後五時 入館料：無料  
休館日：月曜日(祝日の場合は翌営業日)※臨時休館・開館有  
和歌山県田辺市扇ヶ浜2-10 TEL 0739-337365

～開祖の言葉～



合気の道は愛を守る道であります。愛なくばこの世の一切は成り立たないのです。

故に合気の真の動きがなければこの世はつぶれると私は信じているのであります。 「武産合気」より

